

千葉科学大学 心理的安全性ガイドライン

～学生・教職員がともに安心して学び・働けるキャンパスづくりのために～

令和7年10月14日

学長 藤本一雄

本ガイドラインは、大学という多様な学びと関わりの場において、すべての構成員が互いに尊重し合い、安心して意見を表明し、協働できる環境——すなわち心理的安全性の高い環境——を構築することを目的としています。心理的安全性はそれ自体が最終目的ではなく、自由で活発な対話を通じて、学生が主体的に学び、挑戦し、成長すること、そして教職員自身も学び合い、教育・研究の質を高めていくための土台です。このガイドラインを通じて、大学全体が共に学び、高め合う「学びの共同体」として発展していくことを目指します。

1. 心理的安全性とは

心理的安全性（Psychological Safety）とは、人がチームや組織の中で、「自分が安心して発言・質問・失敗できる」と感じられる状態を指します（Edmondson, 1999）。これは教育現場において、学習意欲・創造性・協働性の向上に大きな影響を与えるとされています。

2. 基本方針

本学は、心理的安全性を重視し、すべての学生・教職員が「安心して声を上げられる」「互いに尊重される」大学を目指します。以下に、学生・教職員それぞれの「望ましい行動」と「避けるべき NG 行動」を示します。

3. ガイドライン

【学生向け】

望ましい行動

- 意見を自由に発言することを恐れず、仲間の声も尊重する。
- 授業・ゼミ・課外活動で多様な視点を受け入れる。
- 「間違っても大丈夫」と感じられる雰囲気づくりに協力する。
- 人の失敗を批判せず、学びの機会と捉える。
- 「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」など、積極的に挨拶を交わす。

NG 行動（避けるべき行動）

- 他人の発言を遮ったり、茶化したりする。
- 質問した人に「そんなことも知らないの？」という態度をとる。
- 自分と異なる意見を「間違っている」と一方的に否定する。
- 仲間の失敗を揶揄したり、SNS で拡散する。
- 無視をしたり、挨拶をしないで通り過ぎる。知っている相手だけに挨拶をし、他の

人を無視する。

【教職員向け】

望ましい行動

- 学生の発言や質問に感謝を示す（例：「いい質問だね」）。
- 授業や会議で多様な意見を引き出す工夫をする。
- 学生や同僚に対して敬意をもってフィードバックを行う。
- 立場や上下関係に関わらず、開かれた対話を心がける。
- 学生・教職員に積極的に挨拶をし、個別のコミュニケーションを大切にする。

NG 行動（避けるべき行動）

- 学生や同僚に恥をかかせるような言い方・態度をとる。
- 教室や会議で特定の人ばかりに話しかける・指名する。
- 自分と意見が違う人を黙らせようとする。
- 質問に「常識でしょ」「調べてから来なさい」と冷たく返す。
- 相手からの挨拶を無視したり、冷たく返事をする。挨拶をすることを面倒に感じて避ける。

【学生・教職員共通】

望ましい行動

- 安心・尊重・共感を基本としたコミュニケーションを行う。
- 困っている人がいれば声をかける。
- 誰もが「ここにいていい」と思える空間づくりを意識する。

NG 行動（避けるべき行動）

- 差別的・排他的な発言（性別、国籍、障がい、性的指向など）。
- 小さな声や意見を無視・軽視する態度。
- 「空気を読むこと」を強要し、沈黙や同調を圧力で生む。

4. 最後に

心理的安全性は、チームや組織の全員でつくる文化です。誰か一人の努力ではなく、本学の学生・教職員全員の「小さな配慮」「尊重の態度」が、大学全体の風土を変えていきます。このガイドラインを一人ひとりが理解し、日々の言動に取り入れていくことが、より良いキャンパスの第一歩です。